

## 【会議録】

会 議 名	第2回「港区平和都市宣言40周年記念冊子」等作成業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年6月14日（金） 午後2時00分から午後3時20分
開 催 場 所	港区役所912会議室
委 員 員	出席者 5名 都倉委員長、小松委員、片山委員、山本委員、小坂委員 欠席者 0名
事 務 局	総務部総務課人権・男女平等参画係長大久保、堀口
会 議 次 第	1 開会 2 一次審査の評価について 3 二次審査の項目について 4 第3回業者選考委員会タイムスケジュール 5 閉会
配 付 資 料	資料1 得点集計表 資料2 一次審査得点基準表 資料3 二次審査得点基準表 資料4 第3回業者選考委員会タイムスケジュール（案）

## 会議の結果及び主要な発言

(発言者)

1 開会

2 一次審査の評価について

委員長

まずは事務局から、事務局採点の内容について説明をお願いします。

事務局

事務局採点は大きく分けて「基本事項の評価」と「見積額の評価」です。基本事項の評価では企業および担当者の過去5年間の業務実績件数で採点します。B事業者の企業実績のうち1件は類似の実績とはいえないと判断し、実績として計上していません。A事業者の業務担当者の実績の平均件数で小数点以下が発生しますが、切り上げでも切り捨てでも最終的な得点は変わらないことを確認しています。見積額の評価では事業規模に対する見積額の割合で評価をしました。また、加点についてはB事業者のみ区内事業者優遇に該当することを確認し、その他の加点項目は提出書類がないことから該当なしと判断しています。

委員長

次に、各委員の採点のポイントや講評を順に共有してください。

A委員

A事業者は非常に組織力のある大きい会社で、十分に仕事をする印象でした。ただ、責任者はたくさん業務を担当しており、実際に現場担当者がどのくらい居て、どのように分担するのか、具体的な部分とクリアではない部分があったように思います。例えば、「協力会社のスタッフが」「デザイン会社が」と書いてある部分があり、具体的にどれぐらいの力が注がれるのか、あまりはっきりしないと感じました。拡散の仕掛け等は実績に基づき十分な考え方を持ち、安定感がありました。それから、冊子はこの事業の中心を成しますが、デザインや構成案は非常に無難と感じました。戦争に特化した内容の冊子として、どのようなところにウエイトを置くのかの考察はあまり深くありませんでした。特集企画の提案も様々なものがありますが、具体的にどのように作成するのかとても気になりました。また、それをどのようにチェックするのか、更に具体的な説明が欲しかったです。関連資料の冊子以外については、非常に多様で具体的な提案が成されていました。ただ、どのような内容を扱うのかについては、必ずしも具体的ではありませんでした。SNSの活用も、港区の事業として発信するとき、どこから出すのか、拡散はどのような心掛けが出来るのかについて、多少疑問がある記述がありました。

B事業者は、戦争に特化した内容の考察が非常に熱量をかけて書かれました。冊子のビジュアルや構成方法も、「伝えたい気持ち」が伝わる提案でした。関連資料の冊子以外の部分は、ある意味無難で手堅いラインアップでしたが、見劣りするところはありませんでした。そのような印象から、B事

業者の特に冊子の考え方、構成、技術力等の点数を高く評価し、総合点はB事業者が高くなっています。

#### B委員

今回私の専門分野であるプロモーション、SNSマーケティングやビジュアルの部分で、全体的にどのようなところが課題になるかに着眼点を置いて評価しました。A事業者はSNSプロモーションや若手へのマーケティング設計に強みを持っていると感じました。資料自体は一般的な概念が書かれています。実績がある会社と見受け、戦争について考えるキャンペーンや平和への取組等、広い層にアプローチできる点がとても魅力的でした。A委員の発言通り、我々が提示しているスケジュールもかなりタイトな中で、このメンバーでのスケジュールの見積もりが若干甘い点は気になりました。アクセシビリティやユニバーサルデザインをメインに伝えている反面、あくまで一般的な冊子におけるコンテンツの読みやすさばかりで取材やそれに関連する内容がイメージできるビジュアルイメージがA事業者には具体的に無いのかと思います。実現の可能性が若干乏しく感じました。「戦争」をテーマとする冊子制作の実績が少なく、逆にウェブサイトやプロモーション、SNSマーケティングに長けているため、冊子ではなくウェブサイト等にフォーマットを合わせている点が気になりました。

B事業者はタイトなスケジュールを十分認識していて、バックアッププランや体制もサブメンバー等の設定を十分行っているところはかなりリアリティを感じました。提案書を見た瞬間に現実的にインタビューしているようなシミュレーションが私の頭の中でもできたので、非常に現実的なプランでした。また、取材内容の企画やビジュアル化のイメージボードも、実際の取材内容をどのような目的で、どのように伝えるのか、分かりやすく伝えるための企画を十分に考えているように感じました。ビジュアライズ面では、インフォグラフィックのような、一見分かりにくい情報を分かりやすくすることをしっかり冊子に実装できる体制・知識があることも高評価でした。ただA事業者よりも冊子に重きを置いていたため、プロモーション観点で広い層にアプローチができるような工夫等がしっかりとあると思いました。全体的にB事業者が制作面とビジュアル面に対しての視点を非常に高く評価しました。

#### C委員

全体としてB事業者の得点が高いですが、関連資料からA事業者はこれまでの経験を基に色々と大枠を提示する安心感がある提案でした。一方で、企画書全体の焦点があまり読み手に無い印象を受け、強いて言えばB事業者が読み手に対する分析、語り手に対するフォーカス、今回の事業の根幹となる聞き取りに対する思いに、フォーカスが当たっていると感じました。A事業者はこれまでの戦争に対する会社の取組の延長線上で、今回の企画を捉えている印象を受けました。スケジュールは資料のみで判断すると、B事業者はより解像度が高くスタッフ体制も明確でした。冊子作成の考え方も、A事業者は「伝わった状態」の表現が曖昧に感じました。B事業者は体験者、若者

の取材者、読者の3つの主体の相互の関わりを上手く捉えている記載がある点は、かなり好感を持ちました。読者の認識、意識の変容をもたらそうとするコンセプトが明確で、今回の事業の伝えたい点を十分理解している提案が入っていました。私はよく戦争体験者の聞き取り研究活動を行っていますが、そこに対する配慮、言葉に対する重みはA事業者よりB事業者の方が理解しようとする姿勢が伝わるどころが今回の評価ポイントになりました。冊子全体の章分け、両面表紙のデザインもかなり読み手を意識した提案でした。技術力はあまり大差ないと思いつつ、提案資料の緻密さはB事業者を高く評価しました。発信方法は、A事業者はかなり明確な提案とショート動画、電子書籍等の新しいチャレンジを取り入れた提案でした。一方で、音声のみのコンテンツ、拡散力のあるメディアカウムの記載は更なる議論が必要と感じました。B事業者は一般的な実現の可能性が高い訴求方法が網羅されている一方で、もう少し踏み込んだ提案があればより良かったです。

#### D委員

A事業者とB事業者はそれほど差がありませんでした。A事業者は外部事業者とチームを組み事業を実施しますが、スケジュールも詳細に記載がなく外部事業者との連絡調整やスケジュールの進行管理等が十分対応できるのか、資料から読み取ることができませんでした。書籍の企画提案は、ターゲット分析を行っていることは良いですが、結局分析結果の手段として特に新しいものは感じず、無難な内容でした。最後の関連資料はC委員の発言通り、タイムラインで読める電子書籍、音声コンテンツで様々な手段を工夫している点は興味深いです。

B事業者のスケジュールは非常に明確な記載があり、工程ごとの進行時期が明確で安定感がありました。ただ、募集要項は9月を契約予定とし、資料では8月に研修・取材先調整を行い9月から聞き取り取材とあるため、9月契約開始後に事業を実施した場合、このスケジュールを詰めることができるのか、確認が必要と感じました。冊子構成はコンセプトが明快で紙面構成も工夫が見られ、割と興味を得やすかったです。関連資料は、ポータルサイトの作成は良いが、サイトをどれだけの人に見てもらえるのか、ポータルサイト制作後にいつまでこのサイトを公開するのか、また公開している限り様々なところにリンクし、リンク先の変更がないかの確認や情報の更新等も十分に委託業務内で行ってもらえるのかが気になりました。結果的に、B事業者をA事業者に比べ若干の高評価としました。

#### E委員

「区は折角良い取組みをしているのに周知が足りていない」とよく指摘を受けるため、その点でA事業者は関連資料で様々な取組の広がりが期待でき、結果としてA事業者を高く評価しました。

A事業者は出版社の歴史も長く、戦争・平和についても非常に力を入れて取り組む姿勢もありつつ、編集メンバーの多様さ、SNS、動画作成チーム等の専門チームがあることで多面的な展開が期待出来ました。各委員の発言の通り、各担当者が業務を幅広く掛け持ちしている点、ライター、デザイナー

一は全て外注している点等で、きめ細かに区と連携を取りつつ責任持って対応してもらえるのかは不安に感じました。冊子の考え方は、若い世代に届くよう意識した提案が非常に好感を持ってました。ただ、今後読み継がれていく冊子の中で、インフルエンサー等の一過性な人物を登用する効果はどれほどあるのか疑問に感じました。全体構成は30周年の冊子をそのまま踏襲した印象でした。デザイン案は過去実績等を見ると、読みやすいデザインになると感じました。ただ、冊子作成において若い世代に届けるための考え方がデザイン案にあまり反映されておらず、実際どのようなものが完成するのか不安に感じました。一番評価したのは関連資料です。これまで色々な事業で積み上げてきたデジタル系の取組をフル活用するとされており、港区は特にデジタルサイネージによる情報発信に力を入れているため、デジタルサイネージでも見えそうなミニ動画作成は区の取組との親和性が高いと感じました。また、Xからも閲覧できる電子書籍も非常に魅力的でした。区のホームページにこれまで通りPDFファイルを掲載するよりは、非常に広がりがあると期待しています。

B事業者はD委員の発言通り、募集要項で9月契約としているが、7月からスケジュールが組まれている件の確認が取れているのか不安でした。9月以降の契約でも回せるのか確認したいです。スタッフは自社で十分組まれているため、じっくり向き合って貰えることを期待します。冊子の考え方は記念冊子の趣旨を十分理解していると思いき安心感がありました。ただ、募集要項にある「若い世代にも身近に感じられる内容にする」ための工夫に触れていたら尚良かったです。全体構成は過去の平和都市宣言5周年、20周年、30周年に発行した第1集から第3集のインタビューや手記に繋がるインデックスの提案は、区の最終集として幅広く興味を持って貰えると期待できると感じました。第3集は現在PDFファイルでデータを見ることができませんが、第1集と第2集は冊子のみです。現在皆さんの目に触れるところにあまりないため、区としてデータ化・再発行する取組が必要になると思いますが、上手く連動できるのではないかと感じました。デザインは読みやすく、A委員の発言通り当時の生活を実感できる企画もあり非常に分かりやすかったです。関連資料はオンラインでの3つの取組を挙げていますが、全て区の公式SNSやYouTubeを使う提案であり、これは我々も反省すべき点ですが、訴求力としては弱いと感じました。ポータルサイトは平和都市宣言40周年を契機に検討しているデジタル系の事業と上手く繋がることできると考えます。点数はA事業者を多めに付けましたが、B事業者も非常に手堅い内容でした。ただ、スケジュールが非常に不安なためポイントを下げましたが、全体はそれぞれ好印象でした。

委員長

講評を踏まえ一次審査を通過する事業候補者を決定します。選考基準は一次審査の最低ラインを満点の60%としています。資料1よりA事業者が62%、B事業者が69%で共に60%を超えています。両事業者を二次審査に進めることが妥当かと思いますが、いかがでしょうか。

	(委員一同、異議なし)
委員長	A事業者、B事業者共に一次審査通過とします。
	3 二次審査の項目について
委員長	資料3について意見等をお願いします。
事務局	配点は特に傾斜を付けず選考基準に沿った5項目をそれぞれ20点満点で採点することとしています。
委員長	次回のプレゼンまでの間に、例えばスケジュールが9月契約なのに7月から始まる点は事業者側にフィードバックしますか。
事務局	事前に事業者には伝えません。プレゼン時の質疑の中で確認を行い、事業者がどのように考えているのかを聞き出します。近日中に、一次選考の合否のみ通知します。
委員長	質問、意見等ありますか。
	(委員一同、異議なし)
事務局	資料3を決定とします。
	4 第3回業者選考委員会タイムスケジュール (資料4について説明)
	5 閉会 (閉会の挨拶)